

# ほろにか

令和7年4月15日  
全国卸売酒販組合中央会

「値上げ、賃上げ、コスト転嫁！」

東北卸売酒販組合  
副理事長 金子 能之

(全国卸売酒販組合中央会 総合企画委員会委員)

さくら開花宣言、満開情報。

日本各地から春の訪れを告げるニュースが飛び交う中、弊社のある青森県もやっと雪融けが進み、先週25日、青森市内の観測場所で積雪0cmとなりました。昨年3月に青森に着任した時、雪はほとんどなく「温暖化の影響なのだな」と思っておりましたが、今シーズンは状況が一変し、青森市内で積雪139cm。青森県のみならず東北から北陸にかけての日本海側でも災害級の記録的な大雪に見舞われ市民生活に深刻な影響を及ぼしました。青森県の桜の便りはもう少し先となるのですが、今朝、青森港には大型クルーズ客船「クイーン・エリザベス」が寄港し、いよいよ観光シーズンの幕開けとなります。これから毎週、高層ビルのような大きな姿が港で見られるようになり、ねぶた祭や紅葉シーズンをピークに今年は49隻もの豪華客船が大勢の観光客を乗せ青森県を訪れます。

さて、大手ビールメーカーなどが4月1日からの値上げを発表しました。値上げ発表の品目は多岐にわたり、食料品以外にも大手製紙メーカーや電気料金も値上げ、昨年から続いている米や野菜の高騰も続いており、家計の負担は増すばかり。企業側にとっても、原油高騰によるガソリン値上げや資材高騰、様々な要因による運送業者からの物流費UP、最低賃金上昇による人件費UPなど、二重三重にもコスト増加が続いています。冒頭に記載した「災害級の大雪」による除雪費用増加は雪国だけの話ではありますが、今年だけの異常気象ではなく夏の猛暑と同様、温暖化の影響として今後も大雪は起きやすい傾向となる、という識者の話もあります。道路の除雪費用は県が行っていますが災害となれば

国から補助がでます。しかし、我々の自社倉庫敷地の除雪費用は国から補助金が貰える訳がありません。この費用増も予算に見込まなければなりません。考えるとコスト増は次々とでてきます。

今回の価格改定において、各卸とも「卸のコスト増分を価格改定に折り込む」という目標をもって交渉に臨んだことと思います。個人的な印象ではありますが、概ね順調に交渉が進み、卸の利益改善とともに業務用など小売店側にとっても利益改善につながられたのでは、と思っております。今後、2026年10月に酒税改正があるとはいえ、今回の価格改定でいったんの区切りとなります。

われわれ卸売業者は、大手メーカーと得意先との『間に挟まれる立場』であり、コスト増分を十分に価格転嫁することが容易ではありません。しかも今後は「物流効率化法の改正」などにより運送業界からの圧力も加わることとなり、『間に挟まれる立場』がより複雑になることが予想されます。企業努力によるコスト削減は続けなければなりません。吸収しきれないコスト増は転嫁しなければ事業継続が困難となります。「酒税改正やメーカー価格改定などのタイミングでないと、コスト上昇分を転嫁できない」という、長く続いた商習慣を変えるのは容易な事ではありませんが、エリアごとの課題を卸間で共有しあい、競争の中にも連携を強化していき、価格改定時でない時にもコスト増分を得意先に要請できるような環境を、時間を掛けて醸成していく必要があります。大手企業とまではいかなくとも、社員の賃上げは定期的に行わなければなりません。より良い人材を確保し続けるためにも。